

# 令和5年度第1回八雲町総合教育会議記録

令和6年2月9日（金）

## ◎会議日程

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名
- 4 議題
  - (1) 八雲町児童生徒の学力・体力等の現状について
  - (2) その他
- 5 その他
- 6 閉会

## ◎出席者

町長	岩村克詔
教育長	土井寿彦
委員	羽田圭吾
委員	福田浩子
委員	石岡美香

## ◎説明員・事務局

説明員・事務局	三坂亮司（学校教育課長）
説明員	小林卓也（学校教育課参事）
説明員	佐藤真理子（社会教育課長）
説明員	伊藤勝（体育課長）
事務局	松浦真理子（学校教育課補佐兼総務係長）

【開会 午前10時30分】

### ◎会議日程1 開会

○学校教育課長 教育委員の皆様には、何かとお忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。

ただいまから、令和5年度第1回八雲町総合教育会議を開催いたします。

本日の会議に、神原委員、欠席となっておりますので報告させていただきます。

なお、この会議は議事録を作成し、ホームページなどで公表することとしておりますので、あらかじめご了承くださいと思います。

それでは、開会にあたり岩村町長からご挨拶を申し上げます。

### ◎会議日程2 町長あいさつ

○町長 皆様おはようございます。町長の岩村でございます。

総合教育会議は、久しぶりの開催になります。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しましたが、現在も職員に感染者が出ている状況で、まだまだ感染対策はしなければならぬと改めて感じております。

今日は、色々な話を皆さんと議論したいと思っています。その中の一つですが、2018年に蕨野小学校跡地に植えた葡萄が、農家の方々の協力もあって、今年750ミリリットルのワインの瓶が12本できました。これは、当町の町おこし協力隊の一人が一生懸命関わってくれていて、その奥様がワインのソムリエの資格を持っているということで、試飲してくださり、大変よくできているとのことでした。

今年は、葡萄の苗を植えながら令和9年度にはワイナリーを建設するような考えで進めていることを報告し、今日は総合教育会議ですので八雲町の教育全般に対して活発な議論をしたいと考えてございます。

○学校教育課長 それでは、会議次第の3番目議事録署名委員の指名以降、町長の進行でお願いいたします。

### ◎会議日程3 議事録署名委員の指名

○町長 それでは、本日の議事録署名委員に福田浩子委員を指名します。よろしく申し上げます。

### ◎会議日程4 議題

○町長 早速、議題に入ります。本日の会議は「八雲町児童生徒の学力・体力等の状況について」を議題とします。

それでは、学校教育課参事から説明をお願いします。

○学校教育課参事 今日は、総合教育会議の場でこのような機会をいただき、ありがとうございます。

私の方から学力、体力に関わる具体的な状況について、ご説明させていただきます。少し説明が長くなりますのでご了承願います。

八雲町の児童生徒の学力の状況、体力の状況について、学校教育の現場でどんなところに重点を置いているかということを中心に説明させていただきます。

まず、その内容に入る前に、八雲町の児童生徒数の推移を見ていきたいと思います。小学校児童数が上、中学校生徒数が下となります。平成31年度から令和6年度にかけて小学校では150人、中学校では70人ほど減少しています。

また、その学校別の児童生徒数ですが、現在小学校は7校ありますが、落部小、八雲小は学年ごとに学級編制される単式校、その他の学校については2個学年が1つの学級である複式学級を有する学校となっており、八雲小学校に町内全小学生の75パーセントの児童が通学しています。

次に中学校です。中学校は4校あり、八雲中学校には現在通常の学級が7学級ありますが、その他の中学校は各学年1クラス編制となっています。八雲中学校には全中学生の68パーセントの生徒が通学しています。

それでは、ここから学力の状況について説明いたします。学力の状況については客観的な指標となる「全国学力・学習状況調査」の結果をもとにお示ししていきます。

その「全国学力・学習状況調査」ですが、学習指導要領に基づく学習指導の成果と課題を明確にし、その評価を授業改善につなげることを大きな目的に実施しています。

それでは、各教科の結果から見ていきます。まず、小学校の国語の結果となります。棒グラフの左が八雲町、右が全国の平均値となります。上の黄色い枠が正解した問題数の差になります。平成31年度から見ていきますと、おおよそ僅差で、全国との差が続いていて、問題数も1問以下の状況が続いているということで、小学校の国語については、あと1問を正解すると全国平均を超える状況となっており、基礎的な学力が培われていると見ることができます。

次に算数の結果です。算数については全国との差が国語より若干開いており、正答問題数の差は1問前後となっています。

それでは、次に中学校です。

国語については、平成31年、令和4年度と、全国平均を上回ることが出来ました。この対象の学年については、全国並みの学力がついていたと言えます。今年度については差が大きくなっています。

次に数学です。数学は令和3年度の学年は、全国の値に近づいたのですが、その他についてはおおよそ1問前後の差がついており、今年度については、数学を苦手としている生徒が多いことが分かります。

この「全国学力・学習状況調査」の他にも各中学校では受験に向けた実力テストや、全国の標準学力テスト、知能検査を毎年行っています。その知能検査の結果と、全国学力・学習状況調査の相関を見てみます。

これは、町内全部の中学校の平均値ではなく、町内の1校の結果となりますが、この中

学校においては、令和3年度、国語・数学共に全校平均を超える結果となりました。その年度の生徒の知能偏差値はここ数年で最も高くなっています。今年度の結果では国語、数学とも少し全国と差が広がっているのですが、対象となる生徒の知能偏差値はここ数年で最も低い値となっています。

学校現場では、この知能偏差値と有する学力の相関を見ていて、知能から期待される学力を満たしている状態の割合を取っています。それを見ますと、令和3年度の子どもたちも令和5年度の子どもたちも知能に見合う学力テストの結果であるということが言えました。ですので、点数で見ると下がってはいるのですが、令和3年度の子どもたちも令和5年度の子どもたちも持てる学力についてはおおよそ出し切った結果であったという捉え方もできます。

それでは、これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、八雲町の子どもたちの学力の状況をまとめます。

まず、小学校では「無回答率、白紙答案」は極めて少なく、子どもたちが何とか答えようというような粘り強さを感じています。この傾向は毎年続いています。

国語については、書かれている文章を理解する、「読み取る力」が向上してきているという分析をしています。

半面、その読み取ったことをもとにしながら自分の考えを書く問題。また、算数では、示されたデータを活用して問題を解くについては、苦手であるということが分かっています。

中学校では、小学校同様「無回答率」が低い状態が続いておりますので、中学生についても問題を粘り強く取り組んでいるという傾向が続いていることが分かりました。

教科については、毎年対象学年生徒の実態が異なっており、共通点がないということです。中学校では、生徒一人一人の学習状況に応じた学習指導が小学校より重要になっていると言えます。

もう一点ですが、学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、八雲町の子どもたちの良さとしては、いじめはどんなことがあってもよくないと思っている子どもの割合が、極めて多いです。地域をよくするために、何かしたい、何ができるかを考えている子どもが多いです。様々な場面で、一人に一台配られている学習用端末をよく使って学習していることや人の役に立ちたいと思っている子どもたちの割合が極めて多いということが分かりました。

特に、いじめはどんなことがあってもよくないと考えている児童は100パーセントに近い高さとなっています。

反対に、全国との比較で数値が低いものとしては、自分にはよいところがあると言い切れる児童が少ない、読書時間が少ない、平日の動画視聴やゲームの時間が長い、家庭学習時間が短いという結果が出ました。

特に自分にはよいところが「ある」と回答した子どもたちは全国平均より低いのですが、「少しはある」という回答を含めると全国平均並みとなり、八雲町では少し控えめな子どもたちが多いという印象を受けます。

次に、八雲町の児童生徒の体力の状況について説明いたします。

体力についても、客観的な指標となる「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果をもとに説明いたします。

まず、この体力調査の概要ですが、子どもたちの体力等の状況を把握し、体力づくりや運動習慣等に関わって評価し、指導の改善に役立てることをねらいとしており、小学校5年生と、中学校2年生を対象に行います。

これは、平成30年度から令和5年度までの平均値を取ったものになります。体力テストをするのですが、その結果を体力合計点という点数にします。その点数を全国と比べたものです。棒グラフが八雲町の児童生徒、横線が全国平均を表しています。おおよそ八雲町の子どもたちは全国の子どもたちと比べて平均並みであることが見て取れます。

各学年男女別を詳しく見ていきます。まず、小学校5年生男子の各実技調査結果です。これも平成30年度から令和5年度までの平均値を取ったものになります。星印の実技は全国平均を上回っている種目となります。5年生男子は、ここ数年、8種目中6種目で全国平均を上回っています。

続いて、5年女子です。女子についても8種目中6種目で全国平均を上回っています。

次に、中学校です。男子は、8種目中3種目が全国平均を上回りました。女子は2種目が全国平均を上回っています。

また、新型コロナウイルス感染対策により、生活習慣が変わり、子どもたちの体力面でも影響を受けたのではということに耳にした方もいらっしゃると思います。そこで、八雲町の子どもたちについてコロナ前コロナ後で比較をしてみました。

まず、小学校5年男子です。種目ごとの棒グラフとなっており、グラフの左側がコロナ前、右側がコロナ後です。コロナ後のグラフが青色になっているものがコロナ後に数値が上がった種目、赤が下がった種目です。

このようにしてみると、小学校5年男子は8種目中5種目でコロナ後に数値が下がっていますが、5年女子は男子と対照的で8種目中5種目で数値が向上しました。

次に、中学生を見ていきます。

まず2年男子です。男子は8種目中6種目で数値が上昇しましたが、女子は5つの種目で数値が下降しました。

では、どんなところに原因があるのでしょうか。

このグラフは、ここ数年の1週間の運動時間の推移です。

小学校5年男子のグラフですが、棒グラフが八雲町の子どもたちの1週間の総運動時間、紫の折れ線が全国平均です。

小学校5年生は令和3年度に全国平均並みになったものの、その他の年度は全国平均を下回っています。特に令和4年度からはその差が大きくなってきました。

続いて5年女子です。女子については、ほぼ全国平均並みとなりました。

中学校2年男子についても、おおよそ全国平均並みの運動時間で推移しています。令和元年度と令和3年度の間、運動時間の減少が見られています。この時期に、「学校における

働き方改革」推進のため、休日も含めて部活動の活動時間の目安が示されています。

続いて中学校女子です。令和3・4年度については全国平均との差が大きくなりました。

この結果から、新型コロナウイルス感染症による生活習慣の変更で、その後、どのくらい運動時間を確保できたかできなかったかということが原因だということが分かっている、やはり学校でそこを解決するためには、運動時間をどのように確保していくかという課題が明確になりました。

また、本調査では、体格調査が含まれており、その結果から「肥満の出現率」という割合が示されます。

グラフの左が八雲町、右が全国の値となっています。ここ数年の八雲町児童生徒の肥満出現率は、全国に比べ数値が高くなっています。全ての学年において、全国のおおよそ2倍程度の肥満の出現率となっています。八雲町にはおいしい食材が豊富なので、「豊かな食材による結果です」となればよろしいのですが、これもいくつかのデータとの相関を見えます。

これは、肥満の出現率と運動時間の相関を表したグラフです。棒グラフが、肥満出現率、折れ線グラフが1週間の運動時間総数です。小学校5年生男子で、折れ線の運動時間の数値が高くなれば棒グラフの肥満の出現率が低くなり、運動時間が下がれば、棒グラフの肥満率が多くなるのがお判りでしょうか。全ての年度ではありませんが、運動時間が多くなれば肥満の出現率が下がっているという関係性が見えてきます。

中学校2年女子についても表してみました。いくつかの年度で、先ほどの小学校5年生と同じような傾向が見て取れます。令和3年度は運動時間が短くなり、肥満の出現率が高くなっています。反対に令和5年度は運動系の部活動に属している生徒の割合も上がったということで、運動時間が大幅に増え、肥満の出現率が大きく下がっています。

このことから、学校では、子どもたちの運動習慣を整えることが重要ということが、明らかになっています。

ここまでのまとめとして小学生は多くの種目が全国平均を超えているものの、肥満の出現率が高くなってきています。

また、中学校ではおおよそ全国並みの体力があると見てとれるものの、持久力等の課題が続いています。50メートル走についても課題ではあったのですが、今年度については、中学2年女子では、全国超えをしています。

それではここから、これらの実態を受けて、現在学校で取り組んでいるものや重点をかけていることについて説明いたします。

八雲町では、子どもたちの学力に関する課題克服のため、「汎用的読解力の育成」を視野に入れた授業改善を推進しています。

各学校の教員を交えて、これまでの学力調査等を分析した結果、八雲町の子どもたちは言葉や文章の意味、示された図などの情報を正確に理解していない、読み取れていないという実態が明らかになり、正確に読み取らせるための支援を授業に盛り込んでいく取組を「八雲スタイル」と名付けて、授業改善を推進しています。

具体的には、その読み解くための力、汎用的読解力をどの教科の授業でも盛り込んでいくというような内容になります。

今、学校では、主体的対話的で深い学びということを実践しており、その根底に全ての子どもたちが授業で取り残されないようにという手立てとして、この「八雲スタイル」を取り入れて授業の基礎を作るということを各学校で実践していただき、そこから学力向上につなげて最終的に子どもたちに「生きる力」に結びつけるということを全小中学校で取り組んでいる最中です。

もう1つの学力向上の視点として、ICTの利活用の推進になります。八雲町では、他の市町に先立って端末を整備していただいております。令和2年末には導入が始まり、令和3年2月には各校に配付完了、4月からはどこよりも早く本格的に活用がスタートしました。当時はコロナ禍だったのですが、濃厚接触等で欠席した児童生徒にいち早くオンライン学習を実施することができました。

また、1台1台にSIMカードを入れていただき、家庭環境に左右されずインターネットアクセスができ、場所を選ばずどこにいても活用できるようにしていただき、学校からは感謝の言葉がいつも聞かれます。その他に、学習進度や子どもたちの学習の状況に合わせた問題が出題がされる有償のAIドリルを導入いただき、各学校では、学習のまとめの場面や家庭学習の課題として活用させていただいております。この場を借りて、私からもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

八雲町の各学校では、この端末を、筆記用具やノート、辞書などの学習用具と同じように当たり前使用前に使用する「普段使い」を合言葉に、活用しています。

先生が「端末を出しましょう」、「ここで使いましょう」という指示を出す段階はすでに終え、子どもたち自身が、自分の必要感に応じて使用しています。

また、その使い方の技術を高めるため、GoogleとGoogle for Educationパートナー自治体を締結し、特に中学校では年間複数回、探究的な学習活動で、Googleから直接学んでいます。専門性の高いその技術に子どもたちは大変意欲的に学習に向かっています。今週火曜日には八雲小学校でも活用教室を行いました。

続いて、体力づくりに関する取組です。

体力づくりの本丸、体育の時間には、全ての学校で体を動かす時間を多くする工夫をしながら、子どもたちの体力増進を図っています。

この他にも、各学校の体力面での課題克服のため、独自の体力テストを年間複数回実施し、子どもたちに具体的な数値目標を立てさせて向かわせています。

また、休み時間などの業間を使って、体力づくりに取り組んだり、子どもたちが自主的に体力づくりに取り組めるよう体育館やグラウンドに体力づくりコーナーを設置したり、家庭と連携して体力づくりに向かえるよう、様々な情報を発信しているところです。

今回、主に学力、体力に関わった説明をさせていただきましたが、各学校ではこのほかにも、友達作りや互いに支え合うピア・サポートなどの取組を通じた「心の教育」や地域の様々な学習素材や人と関わりながら、直接的な体験を通して八雲を学ばせる工夫などにも力を入れて取り組んでいます。

これで説明を終わります。この後、皆様からのご意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○町長 説明ありがとうございました。八雲町児童生徒の学力・体力等の状況について、委員から意見や質問等はございませんか。

○羽田委員 今ご説明いただいた中で、平均的には全国を超えている教科もありますが、全国よりも低い部分もあります。このことと家庭学習時間の相関のような資料はあるのでしょうか。

○学校教育課参事 ここで示したデータについては、5か年の推移でその年度ごとに差が開いたり縮んだりということがあります。八雲町の調査対象の子どもの児童生徒数ですが、おおよそ100人前後となっています。例えば函館市のようにもっと多い人数で統計を取ると市の傾向が出てくるのですが、八雲町では町の傾向というよりもその調査対象の学年の傾向が出るのが多く、例えば昨年の6年生は家庭学習もよくやっている学年で、今年の6年生は、逆に家庭学習に向かう児童が少ない傾向にありました。ですが、全国との差は算数も国語もほぼ変化はなく、この調査による相関関係は見られませんでした。ただ、学校では、全ての子どもたちに例えば6年生段階ですと1日1時間の家庭学習を指導していて、ただやりましょうというだけではなくて、おおよそ1時間に見合う課題を出したりしています。

○町長 よろしいでしょうか。他にございませんか。

○福田委員 少しショッキングではあったのですが、知能偏差値と学力が関わってくると説明があったのですが、知能偏差値というのは生まれ持った力という解釈でよかったですでしょうか。

○学校教育課参事 考える力の働きを全体的に把握する検査で、データで見るとその時々々の知能に合わせて学力を有しているかということが視点の1つとなっております、言い方は難しいのですが、家庭環境の影響にもよるのではないかという認識ではあります。

○福田委員 トレーニングで改善されるのでしょうか。

○学校教育課参事 若干上がり下がりはあります。ただ、持てる知能よりも学力が高い子どもたちも1割から2割程度いますし、逆の子どもたちも2割程度います。

○町長 よろしいでしょうか。他にございませんか。

○羽田委員 今の福田委員の質問に関連するのですが、潜在的な自分の能力と学力に相関関係があるという中で、先ほどの説明で1割2割が能力を超えて学習の結果が出ているということで、逆にいうと少し乱暴な言い方ですが8割9割は、知能と学力が相関しているとも言えますね。

○学校教育課参事 このような結果もありますので、学習する時にこの学年はこのような傾向があるということを見て、どの辺りまでの高まりを目指した学習をしていくのかということが教師に問われるところだと考えております。

○羽田委員 知能検査の中でどのくらいの知能偏差値ということが分かればその子どもた

ちに合わせてある程度の学力状態が判断できるということでしょうか。

○学校教育課参事 そのようなこともありますし、前の学年や小学校での学習の振り返りを少し多めにとって学習に向かっていくような工夫をすることも実際にしております。

○羽田委員 希望的な事なのか概念なのかわかりませんが、努力に応じて能力があると思いたい反面、実態としては知能偏差値と学力には相関関係があるということなのですね。

○学校教育課参事 おおよそ小学校4年生段階になると知能偏差値に対しての学力のバランスが取れている子どもたちが、一定程度落ち着く形になります。ただ、小学校2年生段階では、知能に対して期待される学力が低い状態の子どもたちが倍くらいおります。ということからも、八雲町のこれからの学力向上の視点では、やはり幼少期の関係機関と小学校との連携も視野に入れた取組が大事になってくるという考えを持っています。

○町長 よろしいでしょうか。他にございませんか。

○羽田委員 いじめのことについてですが、八雲町の子どもたちはいじめに対してよくないことだと認識していることは分かったのですが、実態としてはいじめについてはあるのでしょうか。

○学校教育課参事 子どもたちは、いじめはいけないと思っているのですが、今のいじめの認定は、受け手の子どもたちが「嫌な思いをした」ということだと「いじめをした」という認定になります。北海道教育委員会でもそういったことを積極的に認知して、教員の目でしっかり見守ったり、関わっていきましょうというスタイルが主流になっています。ですから、「いじめ」と認知された件数は学校現場では増えています。なぜかという、少し前までは、その事象が起きて教員団で会議を開いていじめなのかいじめではないかの判断をしていましたが、今は受け手の子どもが「これ嫌だな」という思いがあったらまず「いじめです」ところからスタートしましょう」ということになっているので、件数としては増えているのですけれども、お陰様で八雲町では、重大事案というところにはつながってなくて、全ての事案が毎年解決しています。具体的は数字でいいますと、令和2年くらいまでは、小学校では多くて10件でしたが、現在は50件、60件という数字になっています。内容を見ると、「〇〇ちゃんに睨まれた」とか「遊ぶときに仲間外れにされた」ということからのスタートです。

ただ、中学校になりますと、いじめの判断が自分で判断できるということもあるのか件数としては、増えてはいません。

○羽田委員 いじめというものを先ほどの説明のようなことから含めるため、件数としては増えているけれども、重大な案件や暴力的、誹謗中傷的な案件はあがっていないということでしょうか。

○学校教育課参事 文部科学省も北海道教育委員会も「喧嘩」という分類を単純にしないで、「喧嘩の中にもいじめの要素やいじめと認定しましょう」という指導が出ていて、各学校それに倣った指標で判断をしています。

○羽田委員 集団での学習をしていく時、「目を逸らされた」ということもいじめの定義に入っていくと拒絶されることがいじめになってしまうのかなという中で、そういうことも含めて対人関係の構築をしていってほしいという思いもあります。あまりにも教育現場の

方で仕切ってしまうと、成長の過程において人間関係の構築をしていくときに、いい思い、嫌な思い、楽しい思い、辛い思いを経験しながら集団生活する中で人間形成してほしいということがどうなのでしょう。なかなかそのさじ加減が難しいと思いました。

○学校教育課参事 「いじめと認定しましょう」という動きと「教員が関わって解決に結び付けましょう」という動きがあるのですが、その解決に結びつける教員の関わりって何があるのかというと、両方の子どもを呼んで、事情を聴いて解決することももちろんあるのですが、今羽田委員がおっしゃったように、日常生活の中で意識をつけるような指導であったり、時には見守りだったりということも含めながら関わっていくことをしながら、ひと昔前まで「子どもの喧嘩に大人が」という視点だけではなくて、しっかり見守って子どもたちの健やかな学校生活を作っていくようにしましょうということも視点の1つに行っております。

○町長 よろしいでしょうか。他にございませんか。

(「なし」という声あり)

#### ◎会議日程5 その他

○町長 それでは日程5その他について発言はありませんか。

(「なし」という声あり)

○町長 なければ事務局から連絡があればお願いします。

(「ありません」という声あり)

#### ◎会議日程6 閉会

○町長 それでは、これをもって本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

【閉会 午前11時16分】